

私たちの生活をラクにするために

ルネサス懇

22年度業績は過去最高

ルネサスエレクトロニクス社の22年度の業績は、売上高が1兆5008億円と大幅に伸長し、純利益も2566億円に達しました。好調な業績を受け、500億円を使って自社株買いをする と発表しています。購入の相手は昨年と同じINCJ（旧産業革新機構）です。INCJは約10年前に、ルネサス 経営再建のため1383億円（1株120円）を出資していました。その後上がった株価により多額の売却益を得ています。

100億円を返すのは何時

過去にルネサスは、経営難を乗り越えることを理由に、年間100億円の人権費削減を決めました。具体的には、基本月収を7.5%減らし、その他の手当を含めて平均で約10%を減らしています。（実際は、その後も2014年の子会社化や、段階的な降給によって、さらに賃金は下がっています。）INCJは昨年と今年だけで2500億円の利益をルネサスから得ました。これは社員の賃金削減の25年分に相当します。それで社員の賃金はいつ戻すのか、改めて問いたいです。

不平等の克服が人類の課題

昨年の株主総会では、総会後の懇談会において、一時金の大幅な格差是正を求める株主に対して、経営者が「平等主義ですね」とあしらう場面があったと言います。しかし不平等の克服こそは、SDGsなどの国際的な取り組みの中で、人類が克服すべき重要な課題として認識されているものです。

<発行者>
ルネサス関連
労働者懇談会
(ルネサス懇)
意見と情報は、
〒142-0043
東京都品川区二葉
2-20-8染野ビル
(電機労働者
懇談会気付)
(03) 6421-5323

電機・情報ユニオンへの相談は、



格差を正当化する根拠として、「頑張った人が報われるべき」という言葉が良く聞かれます。しかし例えば年間3億円もらうCEOが、年収600万円の社員の50倍頑張っていると思われている社員は、まずいと思います。役員クラスの高額報酬は、頑張った会社に貢献した対価ではなく、株主に莫大な利益をもたらしたことによるもの論もあります。根拠がいかかわしく、正当性が疑わしい高額報酬を受け取る主が、頑張りが報われるべきと言っても、むしろ不平等をごまかす言い訳に聞こえてしまいます。

頑張りが報われるために

うつ病で休職中の方々を例に上げるまでもなく、頑張りとは目に見えないものであり、往々にして成果にはつながらないものです。頑張りが報われる会社や社会にするには、こうした目に見えない頑張りを想像し、発見する「努力」が欠かせません。そして一人ひとりがそれぞれの頑張りに気づくことは、ダイバーシティやインクルージョンにとっても大切な条件です。

私たちは、みな（他人に理解してもらえないかどうか）に関わらず、それぞれに頑張っているはずなんです。ですから特に今年は、すべての人に対し、平等に賃上げすることを強く求めずにはいられません。

